

# 長畝ふるさと通信



【2021年6月号】

## ■ 6月のお仕事…連日地獄…

やっと田植えが終わったと思ったら、連日畔草刈り地獄。1日中草刈をすると手はしびれ、腰も痛くなる。中旬からは中干が始まって、今度は溝切地獄。溝切バイク「田面ライダー」にまたがってサクサクと田んぼに溝を切り、今度はケツが痛くなる。気温が高かったせいか苗の生育は良く、むしろ過剰分げつ気味で(この時期の茎数目標 410本/m<sup>2</sup>に対し、478本/m<sup>2</sup>と117%増し)、中干を早めて生育を抑制しています。過剰分げつは一見生育がよく見えますが、この時期に苗が育ちすぎると収穫前に栄養不足になってモミが細くなってしまうので中止が必要です。



その間に大豆の播種をして…昨年は長雨による日照不足とカメムシの食害で惨憺たる結果となったリベンジに大豆防除も早朝からしっかりと。西日本の方の梅雨入りが平年より3週間も早いと聞き、どうなることやらと心配しましたが、佐渡は平年通り18日の梅雨入りで、しかも雨がほとんど降らず、紫外線地獄の中で作業は順調に進みました。



## ■ 三様の堤防

6月はどこの地区も一斉に排水路およびその周辺の草刈をします。長畝では12日に新穂川堤防の草刈を行いました。幅約4m、長さ500mにわたって生い茂った雑草を30人がかりで1時間以上かけ、刈り倒していきました。急こう配に足を取られるため、危険かつ重労働ですが、青年会の協力もあって何とか継続しています。



左は田んぼアートのある田んぼの堤防で、今年も「コロナにマケナイ」の草刈アートが出現しています。毎年、有志で取り組んでいますがアートとはいえクオリティーが低いのが残念ですが...

右は別の地区の堤防。あろうことか火をつけて雑草を一掃する暴挙。しかも堤防の上は農道です。再三、消防署から注意されてもやめないとか...ルール破りの居酒屋と似たような身勝手さにあきれるばかり...



## ■ 田んぼの生きものも活発に

6月13日は佐渡一斉「生きもの調査の日」。トキ認証米生産者の必須取り組み事項で、長畝では子供会にも参加を呼びかけ、毎年行っています。カエルの数を数えたり、田んぼに入って生きものを捕まえてきてみんなでお観察したりして、大人から子供までそれなりに楽しい時間です。



また、16日頃から約一週間、トンボの羽化が最盛期でした。早朝、田んぼへ出かけると羽化したばかりのトンボの羽が朝日に反射してキラキラ輝いてとてもキレイです。新潟大学からトンボの羽化調査を依頼されていて、14日から一週間ごとに毎日、羽化したヤゴの抜け殻を拾い続けた結果、40株の苗に35匹



採取できました。1枚3,000㎡の田んぼに換算すると40,000匹以上のトンボが羽化したことに…スゲー数だけど生き残るのは…。

左はトキではなくサギの幼鳥。10羽くらいの群れで固まって田んぼで懸命に餌を食べています。命の活性化ですな。

## ■ 田んぼ以外では・・・佐渡はフルーツも美味しい



佐渡は夏果実も豊富です。6月はサクランボ、7月～8月は桃にネクタリン、スイカもシャリ気があってとても美味しい。僕も仕事が休みの日には近所の農園で強制労働・・・早朝からサクランボの収穫(サクランボは無限つまみ食いできるので好き)、日中は桃やネクタリンの袋掛け。佐渡の百姓に休日はないのか。

多忙の毎日で唯一のオアシスは仕事終わりの畑で呑むビール。この時期は陽が長いので7時頃までは明るく、夕日が沈むまで心地よい風に吹かれながら呑むビールは最高。一杯目のビールが何よりもうまいのはその日の仕事のストレスを一気に飲み干してしまうからだって聞きました。異議なし！



## ■ 未来のために

地元の小学校の1～2年生(これでも多い方)が来てくれました。「ご飯とパンとどっちが好き？」の質問に「パンの方がおいしいから好き」と答えた子の方が多かった。忖度一切なしです。「登下校の時には空を向いて歩きましょう。トキが見えるのは佐渡の子供だけの特権ですからね～」内心エエ事言ったとほくそ笑んだのですが「車が来たら危ないでしょ、前向いて歩くんだよ」……。



バツサリ切られました。マスクで顔半分は見えませんが、みんなキラキラしたお目目をしていました。一日も早くマスクをせず、空を向いて歩ける日が来ることを心から願っています。皆さんも1日も早くワクチン接種してくださいね。